

「竹島の日」を考え直す会 機関紙

本部;代表 姜徳洙(大阪府八尾市志紀町 3-30 八尾市韓国人会館内 Tel.072-949-1521, FAX072-949-4337)。編集;理事長 久保井規夫(大阪府高槻市川添 1-3-20 Tel. FAX:072-695-3210 Email:aphckuboi@ybb.ne.jp)

戦後七十年、第八回「竹島の日」考え直す集いを盛会裏に開催

6/20(土)、第八回「竹島の日」を考え直す集いを八尾市韓国人会館ホールにて実施した。テーマは、「戦後七十年、竹島問題の解決に向けて、正しい歴史認識を」であった。集会は、百余名の参加者を前に、地元子ども会による韓国の歌と踊りに始まった。続けて、上映された「独島、いま日本では」(韓国 KBS が 3/1 に放映)は、日本に於いて、独島=竹島問題を歴史的に調べ直そうとする活動を分かり易く紹介していると評判であった。我が「竹島の日」を考え直す会の活動も取材されている。黒田副代表、久保井理事長から、要旨次の様な講演がなされた。詳細は、当日資料を参照されたい。また、松岡理事からは、本会の活動が、見解の押しつけや敵愾心を煽るのでなく、納得できる認識を日韓が求めあう立場であることに賛同する意見が述べられた。なお、韓国から、慶尚北道独島財団事務局の方が来日参加し、活動連携の為に本会理事たちの韓国への招聘を提起した。



6/20「考え直す集い」参加者の皆さん

「検定教科書による領土ナショナリズム教育を批判する」

副代表 黒田伊彦

検定により合格した教科書のいずれもが、尖閣、竹島を掲載したが、政府見解そのままのコピーであり、他の見解を排除したものであると痛烈に批判した。「読売新聞」「産経新聞」「毎日新聞」の報道も、いずれも政府見解通りの「日本固有の領土」「不法占拠」を強調したものであった。これは、史実に矛盾し、疑義・他の見解を検定により切り捨てた所為である。かくて、教科書を通して、「敵対」意識を前面に出して道理を引込める、歪んだ「愛国心」が煽動され、未来を担う子供たちに注入される危惧がある。



黒田伊彦副代表

「マスメディアの独島(竹島)報道と日韓国交正常化五十年」理事長 久保井規夫

文部科学省は、中学校学習指導要領解説書にて「北方領土は我が国固有の領土である。……我が国と韓国の間には竹島をめぐる主張に相違があることなどにも触れ、我が国の領土・領域に理解を深めさせることも必要である」としていた。突然、2008.10.3、竹島を「北方領土同様に我が国固有の領土」と変更したことに、史実よりも「我が領土化」の略略を強化した。さらに「秘密保護法」により、政府による情報操作がなされて、竹島(独島)問題の外交重要文書の一部は非公開にされている。竹島(独島)問題については、戦後の敗戦処理問題の如く誤解され、日露戦時の領土強奪の史実が隠蔽されたままである。国会に議席を持つ各政党も、外務省見解に疑義を持ち批判できるだけの確たる認識を培っていない。読売新聞・産経新聞は、政府外務省の見解に立って報道してきた。毎日新聞・朝日新聞は、「韓国も領土主張している」とは述べるが、その韓国の見解は紹介しない。朝日新聞が全二面で特集した「竹島、食い違う見解」(2012.11.1)は有意義であったが、日本側主張を支持する一人の研究者にまとめさせたため、偏向した特集になったのは残念だった。日韓両国民が、相手側の主張と史実を、研究者やマスメディアからも適切に提供され、まず、歴史問題として認識する。さらに、疑義を出し合い、共通理解によって、世論を喚起し政党・政府に領土問題としても解決を促すべきである。以上、詳しくは「独島=竹島ニュース NO.8」(6/20 発行)を参照されたい。



久保井規夫理事長

「竹島の日」考え直す会の代表団 7/1~5 訪韓。

韓国国会歴史歪曲対策特別委員会では、二度目の報告。

7/1(水)~5(日)、姜徳洙代表を初め、七名の役員・理事が、韓国の関係機関・団体と連携協力を進めるために訪韓した。7/1(水)、仁川空港を降り立ち、一行はソウルへ向かった。先ず、東北亜細亜歴史財団事務総長を訪ねて、連携協力を依頼した。



韓国国会前庭で訪問団と独島財団との記念撮影 2015. 7. 1

料で明晰にする明治政府、独島領有に関する二つの決定の虚と実(次に概略を掲載する)を行い、来る 8/10(月)議員会館にて開催の「独島の正しい歴史認識」展示会での主催を申し入れた。

なお、久保井が、この特別対策委員会で報告するのは、本年二度目である。前回は、4/24(金)午前いっぱいかけて、「新史料により、独島の韓国領有を正当に実証する」と題して報告した。ニュース NO. 6 の内容を更に補完して、当日資料とした。その当日資料は、少しだけ残って居ます。熱心な方には譲与します。御希望下さい。

さて、この後、近くの独島体験館を見学し、館長から説明を受けた。一同、瞠目であった。7/2(木)午後には、朴正熙記念館に立ち寄り「日韓基本条約」に思いを馳せ、慶尚北道安東へバスは走った。金寛容道知事を表敬訪問し、そこで独島財団の他のメンバーも加わり、浦項で宿泊した。7/3(金)午前には、蔚陵島へ渡海し、崔樹一蔚陵郡守を表敬訪問した。日露戦時の望楼跡などを探索し、さらに独島博物館を見学した。博物館長の講演を受け、討論を交えた。7/4(土)には、慶尚北道用意のチャーター船舶にて、周辺就航と独島上陸と二つに分かれて行動した。その日の夕刻には、浦項、釜山に戻って、釜山に宿泊した。7/5(日)、釜山空港から閑空へ到着、解散する。

「史料で明晰にする明治政府、独島(竹島)領有に関する二つの決定の虚と実」

2015. 7. 2 **韓国国会歴史歪曲対策特別委員会**での発表要項 **久保井規夫**

第一の決定; 日本外務省が隠蔽する、独島(竹島)を朝鮮領と決裁した太政官指令(1877.3.29)の実

1. 外務省出仕の佐田白茅・森山茂・斉藤栄「朝鮮国交際始末内探書」(1870. 4)に「竹島・松島朝鮮附属ニ相成候始末」。内務省地理寮(局)官吏の調査と、島根県より内務省へ「日本海内竹島外一島地籍編纂方向」と「図面共相添」の付図(磯竹島略図)1876. 10. 16。(付図の松島が今日の独島=竹島である)
2. 内務省から太政官への「次に一島あり。松島と呼ぶ」「本邦関係之無き」を受けて、太政官指令「竹島外一島之儀本邦関係之無き之儀ト可相心得候事」(1877. 3. 29)が島根県へ通知された(同年 4. 9)。



館長説明で、独島体験館を熱心に見学。



韓国国会特別委員会での報告「独島の正しい歴史認識」後の記念撮影 (2015. 7. 2)

3. **新史料**；明治十三(1880)年十一月「大日本国全図」内務省地理局地誌課。明治政府最初の公式領土地図である。日本領土を確定し、管轄した明治政府の内務省。**太政官指令**を受けて、竹島(鬱陵島)・松島(今日の独島=竹島)を領外、即ち朝鮮領とした。因みに、尖閣(釣魚)諸島も日本領内に存在しない。日本国領土の公式地図は内務省地理局が作成し、日本地図作成には是を規範とした。日本海軍の水路図(海図)・日本陸軍の陸地図は、領土に限定せず、欧米地図を参考に作成された。そして、国際名のリアンクールロックと記す。やがて農商務省が、日本国公式領土の地質図を作成する。

新史料；明治三十六(1903)年六月三十日「大日本帝国土性略図」・付図「大日本帝国地質略図」農商務省地質調査所。この公式地図でも、竹島(鬱陵島)・松島(今日の独島=竹島)を領外、即ち朝鮮領とした。

4. 日本政府が領土「編入」した1905年以前に、独島=竹島を日本領と示した日本側の地図・教科書は存在しない、欧米近代地図も稀な数点に過ぎない。一方、独島=竹島を朝鮮(韓国)領と示した近代地図は、欧米も、日本側も含め数多くある。

第二の決定；島根県所管とした閣議決定(1905. 2. 15)は欺瞞、無効となる虚

<戦時戦略による独島(竹島)の強奪である>

1. 戦略要地とする作戦。**新史料**；「大日本韓清地図」明治27(1894)年10月12日。鬱陵島・独島(竹島)は、ウラジオストック露港に対する戦略要地であり、日清戦争・日露戦争時に占領・強奪を記載する。

新史料；海軍軍令部編「極秘明治三十七・八年史」防衛省。日本海軍省は、韓国沿岸・鬱陵島・独島(リアンクールド)に、監視所・海底電線設営を計画(1904. 1. 4)。独島(リアンクールド)は(1905. 10. 9)予定。

2. 調査活動。「軍艦新高行動日誌」

(1904. 9. 24)に、「リアンクールド岩、韓人これを**独島**と表し、本邦漁夫など略してリアンコ島と呼称セリ」。韓国が独島を韓国領と見なしていた史料。「軍艦対馬戦時日誌」、上陸撮影し、設営を確定した(1904. 11. 20)。Willam Blakeney「Cathay and Cipango」(1902)英国海図の供与。

3. 設営と強奪。**新史料**；海軍軍令部「海軍海底電線・監視所設営写真史料」(1904~1905)。北九州・韓国西・南・東沿岸並びに鬱陵島・独島(竹島)への設営状況の写真。最古の竹島(独島)の写真。**新史料**；海軍省航路標識管理所「航路標識便覧表」「付図満韓沿岸航路標識」、明治四十一(1908)年7月20日。

4. 実際の海戦での実証。**新史料**；「日本海海戦行動航跡図(複製)」東郷連合艦隊司令長官提出。**新史料**；「日本海海戦航跡図(1928. 5 海軍省)」。**新史料**；連合艦隊海戦使用海図「日本総図及朝鮮及其付近露清海岸(1891. 8. 10 海軍省水路部)」。5. **独島**(リアンクールロック)に対する「無主地先占」でない国際法違反、及び一事不再議違反の閣議決定(1905. 2. 15)・島根県所管告示(1905. 2. 22)は無効であり、韓国領の強奪である。以上

展示会 新史料による独島(竹島)の正しい歴史認識 日本による独島強奪から韓国「併合」への罪証



浦項港にて、鬱陵島・独島へ向かう「竹島の日」考え直す会訪韓メンバー



国会議員会館ロビーでの史料展示の状況

2015. 8/10(月)~13(木)、標記の展示会を韓国国会議員会館一階ロビーで開催した。赤毛氈を敷き、報道陣のフラッシュの中でテープカットを行った。韓国国会東北アジア歴史歪曲対策特別委員会・慶尚北道独島財団が主催し、東北亜細亜歴史財団・慶尚北道・鬱陵郡後援、「竹島の日」を考え直す会・アジア民衆歴史センター協力である。展示史料は、すべてアジア民衆歴史センター(久保井規夫主宰)が提供した。展示設営やと移送の都合で、展示は所蔵史料の六割程に限定された。なお、ニュースでは紙面の関係で、展示史料の概略だけを抜粋して紹介する。**関係史料所蔵全一覧**は、所蔵先のアジア民衆歴史センター機関紙に掲載されているので、希望者は入手閲覧されたい。

また、8/12(水)の正午には、毎週水曜日に実施されている、日本大使館前での日本軍「慰安婦」犠牲者尊厳回復の抗議集会に参加した。8/15 日本敗戦(韓国光復節)記念日と、阿部首相談話発表前だけに、周辺は交通が規制されるほど大変な人出で、500 余名は参加していた。私たちが引き上げている最中に、火炎が登り、緊急規制があったが、後ほどニュースで日本政府への抗議の焼身事件が起きたと聞いた。

<地図史料による明晰>

A. 朝鮮版古地図



「海左全図」部分拡大

(1)「海左全図」19 世紀前半。蔚陵島への航路や中岳が記される。東南に小さく于山が描かれる。注目すべきは、世宗皇帝二十二年(1440)年より、蔚陵島の住民を本土へ移し、空島政策を実施したことが記されている。

B. 欧米版地図に初出の独島=竹島は韓国領

蔚陵島、及び独島=竹島が記載された欧米版近代地図では、私が、現認した地図では、90%が朝鮮(韓国)領土と明示されていた。(1)仏国版 ロベール「L'EMPIRE DU JAPON」1750 年刊行。欧米版近代地図で、日朝両国が対峙された最古の地図として貴重である。朝鮮領として、Coree 海に蔚陵島・于山島が、朝鮮語発音にて Fanlingtao, Tchiangchantao と表記される。など、英仏独の七点を提示した。

C. 欧米版地図で、誤りの Argonaut 島が糺され、リアンクールロックが登場

(1)米国版 C0m.M.PERRY「ペリー艦隊日本遠征記」1856 年発刊。「収録海図 CHINA and of the JAPAN islands」1855 年作成。L. Argonaute は存在せずと記す。Dagelet or Matsusima、その南西に、H. M. Sh. Hornet 1855 と記している。ホーネットはリアンクールロック(独島=竹島)である。など、英仏独の八点を提示した。

D. 近世の日本製地図では、松島が独島=竹島である

I. 長久保赤水「日本輿地路程全図」は、松島を朝鮮領と改正した

(1)長久保赤水「新刻日本輿地路程全図」1775(安永四)年三月。水戸藩の長久保赤水(1717~1801 年)が刊行した日本最初の経緯線を引いた地図である。「竹島」「松島」が記載された赤水図の稀有な元版である。緯度・経度が引かれた中に、竹島・松島が隠岐島同様の黄色に彩色されている。まだ官許を受けず、版元も明記されておらず、試作版である。阿波国儒者讃岐柴邦彦(柴野栗山)の序で、長久保赤水図であることを記す。竹島の横に、「一云磯竹島」「見高麗猶雲州望隠州」と傍注がある。此处では、長久保赤水関係だけでも 12 点の地図を紹介した。

II. 其の外に松島が記された近世地図

(1)林子平「三国通覧図説」「付図五舖之内日本輿地路程全図」東都書林 須原市兵衛 1785(天明五)年発刊。林子平(仙台藩、1738~1793 年)は、「三国通覧図説」「海国兵談」を著わし、周辺の状況と海防の必要を説いた。1792 年、「海国兵談」が、「国政を私議し、人心を惑わした」として幕府に蟄居を命じられ、著作に、「竹島」の東側に小島が描かれる。竹島には、「朝鮮ノ持也」「此島ヨリ隠州ヲ望又朝鮮ヲモ見ル」と傍注される。長久保赤水の地図を参考にして、記したことが、版元が東都書林須原市兵衛であることからわかる。など、九点の書籍、地図を提示した。

そのなかでも、(6)高橋景保旧稿、山路諧孝改訂「重訂万国全図」1855(安政二)年七月改訂刊行。1871(明治四)年初夏大学再改訂。江戸幕府天文方暦官筆頭の高橋景保が、1810(文化七)年、天文方総力を投じて、当時の欧米地図に加味して完成した「新訂万国全図」を原図とする。比較すれば、改定にて、原図の朝鮮海を日本海に、太平洋側の大日本海を大日本領に書き換えたことが判る。更に、原図に蔚陵島・于山島と朝鮮名で記されていたのが、「アルゴノート島即竹島」・「ダジュレー島即松島」と書き換えられた。于山島=独島説優位が国家的作為で変更されたことが判明する。



「慰安婦」尊厳回復抗議集会(2015. 8. 12)



高橋景保「万国全図」には、蔚陵島・于山島が明記される。

さらに、(9)勝海舟「大日本国沿海略図」1867(慶応三)年発刊。鬱陵島が「松島」、独島=竹島がリュンコバルトロックと記載された最初の日本製地図である。勝海舟は、幕府軍艦奉行の地位にあって、欧米からの最新の情報も把握しており、リアンクールロックが発見された18年後に、日本地図に明示した。英国海図の邦訳とある。「松島」(鬱陵島)の西に、まだ「竹島」も疑問の島として点線で図示され残っている。などは貴重である。

E. 日露戦争前の地図では、独島=竹島は韓国領

I. 当時の朝鮮地図に、独島=竹島は含まれていた

(8)朴泳孝題字、清水光憲編纂「朝鮮輿地図」鹿田静七 1892(明治二十五年)3月7日発行。朝鮮近代化を進めた朴泳孝が在日した時、「招隆三宝」の題字を揮毫した。その動機は、紹介文にある。「金玉均が本国を去る時携帯し来れる彼邦無二の明細分間大絵図にして、氏生前過多時も座右を離なざりし……以てこれを縮写し」とある。金玉均は、1882年、鬱陵島並びに付属の諸島を管轄する東南諸島開拓使に任ぜられていた。当然、独島=竹島について認識していた。竹島、松島の二島が記載されている。両島の存在を韓国官僚が認知していたことが重要である。など、17点の地図を紹介した。



朴泳孝題字、清水光憲編纂「朝鮮輿地図」

II. 当時の日本地図では、竹島=独島は朝鮮領である

(3)大日本帝国内務省地理局地誌課「大日本国全国」1880(明治十三年)11月版權届、同十四年2月出版、同十六年10月補正。内務省は、日本国の領土を管轄する機関である。日本政府初めての、日本領を示した公式の地図であり、日本地図の規範となる。当時、独島=竹島は日本領土として記載されない。

(14)農商務省地質調査所「大日本帝国土性略図」「付図大日本帝国地質略図」1903(明治三十六)年6月30日。日本国領土の地質を示す公式地図である。島根県には、松島は属さず、竹島(鬱陵島)、松島(独島=竹島)を朝鮮領と見なした。などの書籍、地図を14点紹介した。

F. 日露戦争後に、竹島=独島は日本領へ

I. 韓国地図から独島=竹島が除かれた

(1)「日露戦争実記 臨時増刊韓国写真帳 韓国全国」博文館 1905(明治三十八)年6月20日発行。「竹島(所謂リヤンコバルト岩)は元無人不属一小島なりしが、今年初めて我が島根県の管轄に属せしめられる」との投稿がみられる。しかし、冒頭地図「韓国全国」には、鬱陵島(松島)、竹島(リヤンコバルト岩)が載っている。全く同じ地図が、同社の田淵友彦「韓国新地理」1905(明治三十八)年9月9日発行の付図になっている。同書では、「ヤンコ島」として韓国領鬱陵島の属島である。など、七点の書籍、地図を提示した。

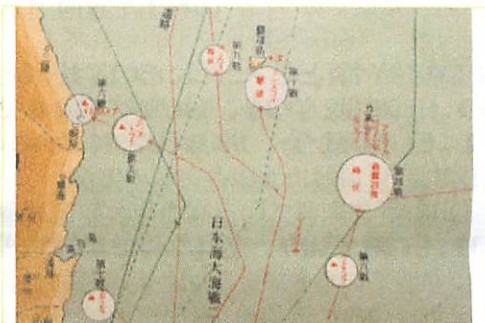
II. 日本地図に竹島=独島が入れられていく

(2)海軍省水路部長坂本一「日本総図及附近諸海」

1907(明治四十)年3月4日水路部刊行の海図である。1910(明治四十三年)1月21日再版。鬱陵島(松島)、竹島と記される。など、九点を提示した。今回の展示史料は、公式と言え政府の内務省・文部省・農商務省・陸海軍などの地図史料を選抜している。

G. 戦後から、現在の地図

(1)大阪読売新聞社編「創刊記念 最新世界大地図」1952(昭和二十七年)11月12日。日本敗戦後に、メディアが日本国民に伝えた国際的な日本の位置づけが判る。奄美大島以南の琉球列島、及び小笠原諸島・硫黄列島が、アメリカ合衆国管理として赤点線で囲まれている。韓国との国境・領海線も記入されず、「竹島」の名だけが記入されている。



鬱陵島・独島は、ウラジオストック港を目指す露艦隊を遮断する戦略要地であった。多数の日露海戦図に描かれている。

(2)大阪読売新聞社編「最新精密日本大地図」1952(昭和二十七年)11月12日。奄美大島以南の琉球列島も、小笠原諸島も失った。北方領土も、サハリン南部も、千島列島も失った。僅かに、国後島、色丹島、歯舞諸島を地図には記すが、択捉島は記入もされず、北方四島は実質的に失った。島根県には隠岐島は記すが、独島=竹島は記されず、韓国領とされた。展示会では、これらの敗戦直後の日本領土を示した地図に限定した。

<事象をめぐる史料による明晰>

A. 浜田藩天保竹島一件は、幕政を揺るがす一大政変であった

1836~37(天保七~八)年に生じた浜田藩天保竹島一件は、竹島(実は朝鮮国鬱陵島)への異国渡海として鎖国令国禁を犯す大罪であった。浜田藩主は蟄居、子に藩主交代、更に福島棚倉へ左遷転封される国替えの厳罰となった。浜田藩主松平周防守康任は、大阪城代、京都所司代、寺社奉行、本丸老中から、天保六年10月29日、

幕閣最高権力者の老中首座に上り詰めた。竹島一件などは握りつぶすことは可能であった。しかし、その老中首座の地位を狙った本丸老中の浜松藩主水野越前守忠邦が、傘下の大坂町奉行、寺社奉行の内偵を以て、一挙に松平周防守康任を失脚させた。

(1)「竹島・松島異国渡海禁止令」の高札 1837(天保八)年2月。



会津屋八右衛門頌徳碑

全国大名・代官に布令する大目付より、全国津々浦に、異国渡海禁止厳罰の高札を掛けさせた。「此度、松平周防守、元領分石州浜田……無宿八右衛門、竹嶋へ渡海候一件、……元禄の度、朝鮮国え御渡りに相成候、



「竹島・松島異国渡海禁止令」の高札

以来渡海停止仰付候場所に有之、都て異国渡海の儀は重き御制禁に候条、向後右島の儀も、同様相心得渡海致間敷候」竹島・松島への渡海は異国朝鮮への鎖国令違反として厳罰に処するとの高札(法令、処罰の通達)である。

(2)「竹島・松島異国渡海禁止令」の高札の解説」。「大坂町奉行所の八右衛門取

調書 付図『竹島・松島は朝鮮領』。

(3)「八右衛門の竹島絵図」「錦絵 八右衛門」「野口雨情『浜田小唄』」「会津屋八右衛門頌徳碑」「岡山俊信『竹島事件海外雄飛の実録史、会津屋父子』」「古川薫『閉じられた海図』文春文庫」「山根俊久『竹島事件史』(『浜田町史』抜粋)」「三波春夫『浪曲 海に虹をかけた男』」「山陰浜田港の味、八右衛門すし」。

(4) 豪商西村・熊谷家貸借証文綴三巻。長州の豪商、西村利右衛門、熊谷吾一父子。松平周防守康任を、老中首座に上らせ、八右衛門に密貿易をさせた浜田藩の財政は此処であった。福島棚倉へ懲罰国替えした際の資金援助の一巻のみ、展示する。(5)「仙石実録 全」「仙石様一件御裁件」1835(天保六年) 兵庫出石藩の相続をめぐる仙石騒動の記録と、老中決裁文書である。この騒動で、浜田藩主松平周防守康任は、責任を問われ、1835(天保六年)、老中首座を失脚した。

B.林子平への弾圧は、「三国通覧図説」ではなく「海国兵談」である

(1)林子平「海国兵談」東都書林須原市兵衛 1786(天明六年)。島国日本の海防への備えを説いたが、幕府から、「人心を惑わし、政治を私議した」として、1792(寛政四年)年、蟄居を命じられた。後年、名誉回復されたが、不遇の死後であった。(2)林子平書簡 1792(寛政四年)年十月。版元も弾圧され、版木・著作が没収され、「三国通覧図説」「海国兵談」を求められても、写本にて伝える有様を綴る。

C.朝鮮領とした「太政官指令」。「大韓帝国勅令」の領有宣言

D.日露戦争時、独島の強奪と竹島の捏造

I.日露戦争、旅順要塞攻略の図 (外国債対策の情宣)

(1)錦絵「東鷄冠山北砲台占領の実況」

(2)錦絵「旅順背二〇三高地砲台強襲奮闘の実況」

II.日露戦時、望楼・海底電線の設営(1904~1905)

(1)敷設船の小笠原丸、沖繩丸、三辰丸。海底電線基地。電線輸送の奉天丸。電線敷設の滑動輪。海底電線とバルーン。海底電線設営工事。

(2)釜山沖鴻島の仮設望楼工事。対馬、壱岐島の工事。サハリン、宗谷海峡の工事。渡島半島の工事。地元のアイヌ。

(3)新高丸、対馬丸の調査。韓国竹辺港、浦項港での望楼・海底電線工事。海軍巡洋艦対馬丸によるリアンクールロックへの上陸調査・撮影(現存最古の写真 1904.11.20)。



リアンクールロックへの上陸調査 (対馬丸撮影)1904.11.20

(4)航路標識管理所「航路標識便覧表 明治四十年・四十一年」日本海員掖済会。「附録 韓国沿岸航路標識」「挿入附図 満韓沿岸」より、日露戦時の仮設望楼・海底電線は戦後壊されたが、重要航路・戦略要地では、本格灯台・航路標識として常設されたことが判る。戦略要地竹島灯台(全羅南道)1911年。

III.日露戦争の海図と独島の戦略的位置

(1)同盟国英国による測量・海底電線協力と海図提供。WILLAM BLKENY R.N「CATHAY and CIPANGO」1902年。英国海軍測量技師 WILLAM BLKENY が、伊藤博文侯爵に献呈した書籍。

(2)ウラジオストック露港と麟陵島・独島の戦略的位置を示す。

(2-a) 海戦時、日本連合艦隊側の海図「日本総図、朝鮮附近露清海岸図」巡洋艦和泉使用

(2-b) 海軍軍令部「明治三十七・八年海戦史」「大付図五 日本海海戦行動航跡図(東郷連合艦隊司令長官提出)」複製。蔚陵島・リアンコールロック前の連合艦隊の配置と、望楼・海底電線に注目されたい。

(2-c) 海軍省「日本海海戦経過概要 戦場航跡図 主隊対勢図」1928(昭和三)年5月。

(2-d) 「戦時画報」近時画報社 54.55.56号三冊。いずれもリアンコールロック沖で投降した露艦隊の図。1905(明治三十八)年6/10.15.20発行。

E.日本による韓国「併合」の事象を著わす図版史料

I. 錦絵

(1)1868年、「征韓論 朝鮮侵略をする西郷派と、清国の介入を恐れ延期する大久保派との論争である。」

(2)1875年9月、「朝鮮江華島に侵入した日本軍艦雲揚号。不平等条約を結ばせ開国させる。」

(3)1882年、「壬午軍乱。不平等条約で物価高騰、官民苦しみ。朝鮮の兵士も民衆も決起した。」



江華島に侵入した日本軍艦雲揚号

II. 錦絵

(1)「大院君(王父)は、閔妃(王妃)を排除し権力を求む。日本政府は大院君を利用した。」

(2)1894年、「甲午農民戦争を機に日清両国は朝鮮に出兵し撤兵せず、日清戦争を始めた。」

(3)1895年、「漢陽への凱旋。日清戦争で勝利した日本は朝鮮への侵略を強めた。」

III. 錦絵「日清戦争の戦場での捕虜の斬首」

IV. 日本側報道の錦絵

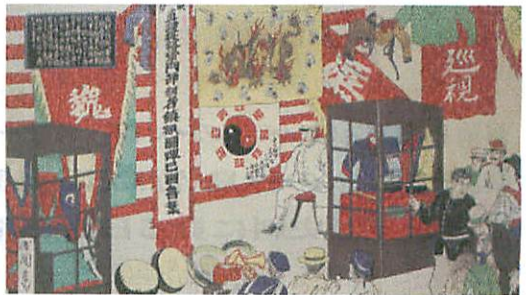
(1)錦絵「日清戦争で朝鮮も攻撃、朝鮮「大極旗」を分捕り品と飾る靖国神社」

(2)錦絵「併合詔勅を上りとする朝鮮双六」

(3)錦絵「日韓併合の予告の結び」1905(明治三十八)年1月1日。

(4)錦絵「虎にまたがる日韓の子ども」1910(明治四十三年)八月。

(5)「韓国併合記念章」1910(明治四十三年)8月29日。韓国併合祝賀会で授与された。李王朝



日清戦争にて、朝鮮軍より奪った太極旗(靖国神社)



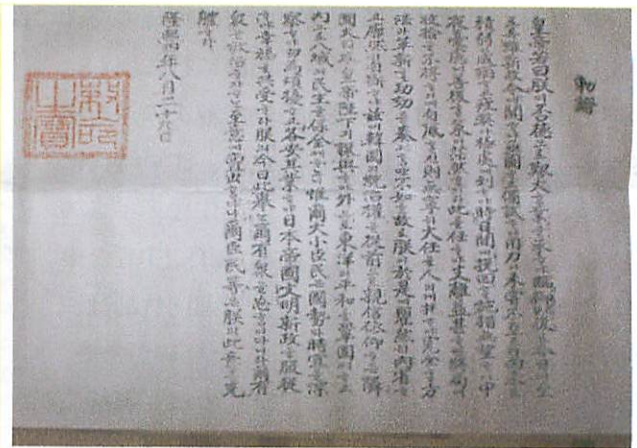
韓国併合記念章

の梨花と日本軍の桜花が天皇の菊花の下に結ばれた屈辱の記念章である。etc

V. 屈辱の韓国皇帝「併合」宣旨図

VI. ハングルの日本軍軍票(1904年)

日露戦時、日本軍は、韓国での物資・土地・労役の費用を占領地扱いで軍票を乱発して賄った。韓国政府は、軍票を兌換する多大な負担を強いられた。



韓国最後の皇帝純宗が宣旨した「併合」勅諭



外務省前で李ライン撤去を求める人々

F. 戦後問題とは誤魔化しである

I. 李ライン (1952. 1. 18)は、マッカーサーラインの継続であった。「アサヒグラフ」1955. 12. 21、1959. 6. 14。二冊。「漁業用海図(国交正常化前)」1960(昭和三十五年)6月。共同規制が入り組む。

II. 「対日講和条約」による日本領域でも独島=竹島を韓国領とした。毎日新聞社「対日平和条約 付図日本領域」1952年4月。大阪読売新聞社「最新精密日本大地図」1952(昭和二十七年)11月12日。etc

10/11(日) **第九回「竹島の日」を考え直す集い**

◆**テーマ** 戦後70年、独島(竹島)問題の解決への課題

◆**日時** 2015年10月11日(日) 13:00~16:00

◆**会場** 八尾市韓国人会館ホール(大阪府八尾市志紀町3-30) ☎072-949-1521
JR天王寺駅より関西本線で、志紀駅下車。西口より北へ2分、右側茶色の建物。

◆**内容** 開会 13:00 閉会 16:00 **貴方の参加をお待ちしています。**

1. 歓迎(子ども会の演奏)。開会挨拶 代表 **姜徳洙**。

2. 「韓国で展開した本会の活動と交流」。

3. 報告:韓国慶尚北道独島財団との姉妹結縁協約。

4. **講演I「植民地支配の加害責任にふれない安倍首相談話」** 副代表 **黒田伊彦**。

安倍談話では、「日露戦争は植民地支配の基にあった多くのアジアやアフリカの人々を勇気づけました」とし、韓国併合と苛酷な植民地支配の為だったことには触れていない。軍の性奴隷としての「慰安婦」問題も、「戦場の陰には、深く名誉と尊厳を傷つけられた女性たちがいたことを忘れてはなりません」とは言っても、辱めた日本軍の加害責任への謝罪も無い。「先の世代の子どもたちに謝罪を続ける宿命を背負わせてはなりません」と、謝罪も、補償も、正しい歴史教育による記憶の継承を拒否し、事実の忘却を強制している。日韓和解の為、吉田松陰、福沢諭吉への記憶の暗殺に対する挑戦に言及したい。

5. **講演II「国家レベルのヘイト・スピーチ、日本の独島(竹島)領有権発言」** **崔哲榮教授**。

6. **講演III「日本の独島(竹島)固有領土論は成立するのか」** **宋彙榮教授**。

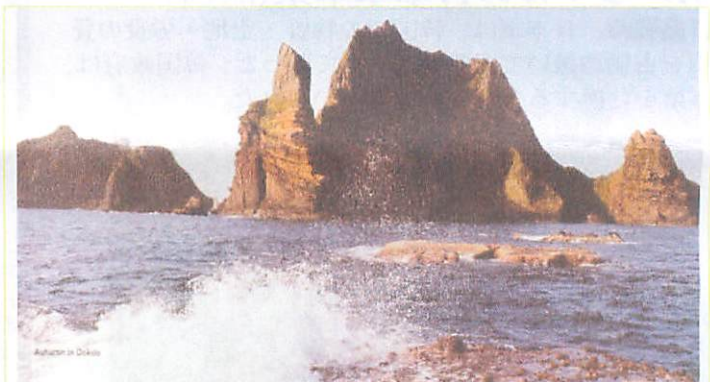
7. 休憩・**展示「史料に見る日本の領土問題……北方(クリル諸島)、尖閣(釣魚台)、竹島(独島)」**。

本会で竹島(独島)関係以外に、北方領土、尖閣関係の史料が提示されるのは初めてである。

8. **講演IV「対立でなく解決への領土教育の課題」**

……**竹島、尖閣、北方領土の史実に基づく確たる相互理解を** 理事長 **久保井規夫**。

日本の領土問題は、敗戦後の国交回復時の交渉で留保されたことが背景にある。教科書は、外務省見解そのままに、領土ナショナリズムを前面に打ち出し、「不法占拠」など対決を煽るだけで解決の道を示さない。竹島、北方領土は、一旦は、江戸時代に解決済みであった。しかし、北方先住民アイヌの生存権は奪われた。尖閣も、沖縄(琉球王国)と中国とで領有権は近世に遡る。また、尖閣・竹島は、日清・日露戦争時に日本が領有化した経緯がある。これらの史実に基づき、確たる自覚の相互理解によってこそ解決できることを示したい。



独島(竹島)を西島側海上より望む

9. **集会決議「領土問題の教科書記述についての申入書」** 首相、文部科学省、各教科書会社へ。

10. **パネルディスカッション「解決の為に日韓相互の課題は何か」**(会場からの意見・質疑も)

編集後記 本会のニュースは、年会費2,000円の納入を納入した方だけに送付します。韓国慶尚北道独島財団とは、史料研究の相互交流とともに、一致できる活動についても協力することを約し、活動が日韓両国へ広がることとなった。